

陸連時報 三

2018
平成30年

10 月号

題字は平沼亮三(初代陸連会長)の書

目 次

第6回全国高等学校陸上競技選抜大会報告(強化委員会強化育成部U20コーディネーター 大橋祐二)	214
ホクレン・ディスタンスチャレンジ2018大会報告(大会運営委員 木路修平)	215
第214回国際陸上競技連盟(IAAF)及び第89回アジア陸上競技連盟(AAA)カウンシル会議報告 (会長 横川浩)	216
IAAF CECS レベル1 講師養成コース(普及育成委員会指導者育成部長 沼澤秀雄)	217
科学委員会活動報告(科学委員会 高松潤二/杉田正明)	218
“日清食品カップ”第34回全国小学生陸上競技交流大会報告(普及育成委員会普及育成部 岸政智)	220
陸上競技指導者の登竜門!!『JAAFジュニアコーチ養成講習会』	222
2018数字で見る陸上競技Vol.2 都道府県公認審判員数	223
施設用器具委員会報告(2018-1)(施設用器具委員会)	224
大会観戦ガイド	226
陸協NEWS	228
事務局からのお知らせ	230

公告

「陸連時報」は公益財団法人日本陸上競技連盟定款第4条第6号の「機関誌」の性格を有するものですが、毎月「陸上競技マガジン」と一体として発行しています。陸上競技に関する啓発記事のほか、必要に応じて、評議員会、理事会の決定事項、各専門委員会、事務局からの報告、通達も掲載いたします。本時報に掲載した通達は、公式に通達したものと取扱わさせていただきますので、登録競技者は本時報の掲載内容にご注意下さい。また、陸上競技指導者の方は、所属競技者にお知らせ下さるようお願い致します。

公益財団法人日本陸上競技連盟

第6回全国高等学校陸上競技選抜大会 報告

強化委員会強化育成部 U20 コーディネーター 大橋 祐二

2018年8月25日から26日まで、ヤンマーフィールド長居において第6回全国高等学校陸上競技選抜大会が開催された。前日に本州に上陸した台風20号の影響が心配されたが、大会当日には本州を通過し、両日とも晴天に恵まれた。

今大会の目的は、種目間トランスファーを考慮した参加標準記録を設定することによって、優秀な人材が専門外種目に挑戦する機会を提供すること、さらに専門種目に必要な能力を考慮した専門外種目での参加標準記録を設定することによって、競技者としての視野を広げシニアに繋がる普及・強化を図ることであった。そのため、昨年まで実施されていた種目を今大会では一新し、以下の男子10種目・女子12種目が実施された(女子棒高跳は参加標準記録突破者がいなかったため実施せず)。

【男子】

スプリントトライアスロン (60m・150m・300m)、600m、3000m、110mH、300mH、2000m障害、3000m競歩、二段跳、砲丸投、五種競技 (100m・走幅跳・砲丸投・走高跳・400m)

【女子】

スプリントトライアスロン (60m・150m・300m)、600m、2000m、100mYH、300mH、2000m障害、3000m競歩、四段跳、棒高跳、砲丸投、ハンマー投、四種競技 (100mH・走高跳・砲丸投・200m)

- ※1: スプリントトライアスロンは、60m、150m、300mの合計点で競う。
- ※2: 男子110mMHは、高さ0.914m、スタートラインから第1ハードルまでの距離13.72m、ハードル間の距離9.14mとする。
- ※3: 女子100mYHは、高さ0.764m、スタートラインから第1ハードルまでの距離13m、ハードル間の距離8.5mとする。
- ※4: 男女300mHのハードルの配置について下記の通りとする。
台数8台、高さ男子0.914m、女子0.762m、スタートラインから第1ハードルまでの距離45m、ハードル間の距離35m、最終のハードルからフィニッシュラインまでの距離10mとする。
- ※5: 3000m競歩はピットレーンを実施する。ラスト1周に入る制限記録を設定する。
- ※6: 男子二段跳は「踏切右脚・右脚・着地」または「踏切左脚・左脚・着地」での跳躍とする。
- ※7: 女子四段跳は「踏切右脚・右脚・右脚・左脚・着地」または「踏切左脚・左脚・左脚・右脚・着地」での跳躍とする。
- ※8: 男女砲丸投は回転投法限定とする。

上記の種目の中で、男子二段跳と女子四段跳は世界的に見ても珍しい種目といえる。男子二段跳は、助走速度を高め、ホップとステップの合計距離を伸ばすことを、また、女子四段跳は、正しいステップ動作を身につけることで、ホップとステップの合計距離を伸ばすことを目的とした。特殊種目であるため、大会結果を他の公認種目の記録と比較することは難しいが、女子四段跳の河添千秋選手(松山北)の16m15(+2.2)という記録は、関係者の中でも非常に高い評価であった。また、スプリントトライアスロン(以下、ST)の出場者は、男子74名、女子58名と非常に盛況であった。その中で、女子STの白井文音選手(立命館慶祥)は、60m:7秒55(1035点)、150m:18秒01(1035点)、38秒37(1044点)と、全種目で1位となり完全優勝を果たした。以前から実施されている男子300mHは、予選から好調であった山村恵斗選手(生野)が36秒17の大会新記録で優勝した。

大会1日目終了後、ジョージア大学スローイングコーチで2007年世界選手権男子砲丸投優勝のReese Hoffa選手や2005年世界選手権男子砲丸投優勝のAdam Nelson選手など、多くの世界トップレベルの選手を育てたDon Babbittコーチによる砲丸投の回転投法クリニックを実施した。台風の影響でクリニック実施日時が変更になったが、選手・指導者含め約40名が参加した。今年度フィンランド・タンペレで行われたU20世界選手権では、男子砲丸投入賞者が全員回転投法であることから、世界の主流は回転投法といえる。Donコーチによると、回転投法の習得は高校からでも十分可能であり、欧米人に比べ体格に劣る日本人には体格の差を補うために適した技術であるとのことであった。基礎的な内容を実技指導を交えながら丁寧に指導していただき、受講者には大変好評であった。

今大会を実施するにあたり、特殊種目の資格審査や大会準備運営など、大阪陸上競技協会には多大なご協力をいただいた。本誌面をもって感謝申し上げます。



第214回国際陸上競技連盟(IAAF)及び第89回アジア陸上競技連盟(AAA)カOUNCIL会議報告

会長 横川 浩

第214回国際陸上競技連盟カOUNCIL会議(2018年7月26日~27日)がブエノスアイレスで、第89回アジア陸上競技連盟カOUNCIL会議(2018年7月3日)がバンコクで開催されたので、IAAFカOUNCILメンバーとして参加した。同会議の概要は以下の通りである。

第214回国際陸上競技連盟カOUNCIL会議 概要

1. ロシア問題

ルネ・アンデルセン調査団長から報告が行われ、IAAFが前回会議で、ロシア陸連の対応の遅さを懸念し、今後も改善が認められない場合には、ロシア陸連の除籍も含めた措置を考えている事を表明した事によって、ロシア陸連の対応にかなりの改善が見られたとした。しかしながら、処分解除の条件となっている、マクラーレンレポートに対する説明義務や、モスクワ検査所にある、2011~2015年のサンプルデータへのアクセスが保障されていない事、ロシアアンチドーピング機構が世界アンチドーピング機構から再認定を受けていない事等から、資格停止処分の継続を決定した。尚、ロシア国籍で出場を認められた中立選手(ANA選手)は、ヨーロッパ選手権への参加も認められている事から、IAAFコンチネンタルカップへの参加についても認める事とした。

2. アンチドーピング

AIU (Athletics Integrity Unit) は、アンチドーピングに於ける各連盟(MF)の役割を明確にする事が必須であると考え、新たなIAAFアンチドーピング規則第15条、第16条を提案し、承認された。各MFは、カテゴリAからCに分けられ、区分ごとのMFの責務が明確化される。カテゴリAには、現在AIU監視下にある、ケニア、エチオピア、ベラルーシ、ウクライナを含む厳格な監視が必要とされるMFが区分され、オリンピックや世界選手権の開催前10か月にOOC(競技会外検査)を3回以上受ける事が義務付けられる。カテゴリBには国際レベルで競技力を示しているMFが区分され、日本もこのカテゴリに属する。アンチドーピング機構と協力して、RTP(検査対象者)に入っていない国際レベルの選手にOOCを実施する努力をする事、ナショナルチームの選手に教育啓発活動を実施する事、MFのアンチドーピング・コンプライアンスをモニターするスタッフを配置する事、世界選手権やオリンピック前のドーピング検査計画を提出する事等が義務付けられる。カテゴリCは国際レベルの選手がほとんどいないMFで、適切なドーピング検査の実施が義務付けられる。同規則は2019年1月から導入される。

3. 国籍変更(各MFを代表するエリジビリティ)

筆者が委員長を務める国籍変更に関するワーキンググループは最終報告を行い、新たな規則第5条と従来はなかった新規定を提案し、承認された。新たな規則に盛り込まれた条項としては、申請にはトランスファーする国の市民権とそれに伴う権利を取得した事を証明する事が必要である事、申請書の提出から最低でも3年のウェイトリフト・コンプライアンスが必要である事、トランスファーは例外的に元の国に戻るケースが認められるケースを除けば、基本的には1回のみである事、20歳未満の選手のトランスファーは認められない事が明記されている。申請の審査を行う独立パネルが設置され、筆者がパネルの委員長に任命された。

4. コンペティション関係

- ワールドランニングシステムの開発は最終段階にあり、ステークホルダーからのフィードバックを受けて、大会のカテゴリ分けやシステム運用の調整が行われている。最終的なシステムの立ち上げは来年年明けに先送りになる見込みだが、ドーハ世界選手権や東京オリンピックの選考基準への影響は無い。今後、各選手の記録が、ポイントランニングに正しく反映されるには、IAAFに正しいリザルトが迅速に送付される事が必須となる。
- 2020年東京オリンピックの各種目への参加人数を含め、選考方法が承認された。ドーハ世界選手権の選考方法に則しており、選考には従来の参加標準記録ではなく、ワールドランニングシステムが採用される。
- 競歩種目の魅力向上のために、2020年東京オリンピック以降の競技プログラムについて、検討を深める。
- 2019年ラベリング規定が承認された。ゴールドの上位クラスとして、ブラチナムラベルが導入される。エリート選手の要件には従来のタイムではなく、ワールドランニングシステムでの順位が基準となる。
- 2020年U20世界選手権の開催地がケニア・ナイロビで決定した。(開

催予定日は2020年7月7日~12日)

- 2023年世界選手権の開催地として、ヨーロッパのハンガリー・ブダペストが挙げられ、承認された。2023年入札ガイドラインに従って、運営面や財政面での審査とリスクアセスメントが、評価パネルによって実施される。
 - 2019年世界リレーはバハマで開催が予定されていたが、バハマ政府が開催の断念を表明している。
- ### 5. IAAF組織
- 2019年憲章の下、2019年の選挙から、カOUNCILメンバー等の構成に変更が生じ、新たな組織体制となる。この新組織体制に則した、新ガバナンス規則が2019年1月から導入される。
 - 来年選挙に向け、新たな立候補に関する規則が承認された。選挙に向けては、選挙管理パネルが設置され、選挙活動に於ける不正がない事を管理する。
 - コミッションはコンペティション、デベロップメント、ガバナンスと従来のアスリート委員会の4つとなる。各コミッションは8~12名から構成される。エリアとMFからの推薦により候補者が挙げられ、ノミネーションパネルが審査を行い、カOUNCILが決定する。メンバーにはカOUNCILメンバーを2名、アスリートを1名、各エリアから最低1名を加え、女性の割合は最低でも30%とする。
- ### 6. その他
- 選手代理人(AR)の不適切な活動を抑止する新たな規定を導入する。
 - ヘルス&サイエンスコミッションの提案に基づき、選手へのハラスメントや虐待防止に関する声明を発表する。
 - カタルド立銀行との新たなマーケティング契約が締結された。
 - 国際陸連の組織改革に則した、MFやエリアのアライメントガイドラインが発表される。
 - 国際競歩審判(IRWJレベルIII)の評価セミナーが11月2日~4日にロンドンで開催される。2019年から2022年のIRWJは20名とする。

第89回アジア陸上競技連盟カOUNCIL会議 概要

1. AAAは、来春より事務局の拠点をシンガポールからバンコクのタマサート大学へ移す事になり、今回は、IAAFコー会長やタイ政府関係者のご臨席の下、AAA、タイ陸上競技連盟、タマサート大学による契約締結の調印式が行われた。
2. IAAF Coe会長は、国際陸上界に於いてアジアが果たす役割の重要性を説き、特に、2019年、2020年は、ドーハ世界選手権、東京オリンピック、南京世界室内選手権といった主要国際競技会がアジアで開催される事に言及した。IAAFがおかれている現状や課題、今後の活動方針について説明し、理解を求めた。
3. AAA グーラン会長は、タイ政府、タイ陸連がアジアの陸上普及に多大なる貢献をしている事に感謝すると同時に、シンガポールオフィスを経営に引き継いだ、ニコラス事務総長の功績を称えた。タマサート大学では、事務局が設置されるだけでなく、関係者は学内の施設を利用する事ができる。新たな環境の下、アジアが一致団結して、世界での求心力を高める重要性が再確認された。AAA戦略プランは最終段階にあり、今後は運用方法を明確化する必要があるが、同時に、アジア5地域毎の活動の強化と憲章の策定を推進する。
4. AAA Development Directorにバキスタンのサルマン・バット氏が就任し、今後の普及プログラムを推進して行く。サルマン氏は各RDCセンターの視察を実施し、その活動内容や、人事・財務・運営・ガバナンス体制の課題を挙げた。現状分析を踏まえ、新たな方策が取られる予定だが、各国のニーズも鑑みて計画する必要がある。Eラーニングのコースを充実させる事や、カリキュラムの実施場所を広くアジアに広げる事が提案された。
5. 日本で開催されたアジアジュニア選手権(2018年6月7日~10日・岐阜)は高い評価を受け、今後の大会運営のモデルケースとして称された。ドーハ開催のアジア選手権(2019年4月21日~24日)の準備は順調に進んでおり、大会前日のAAA総会では、AAAカOUNCILメンバーの選挙が行われる。

ホクレン・ディスタンスチャレンジ2018大会報告

大会運営委員 木路 修平

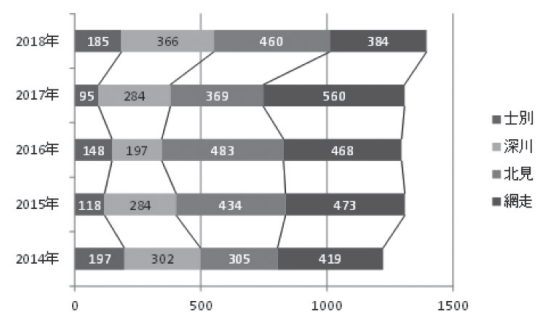
【会場・期日】

今回で16回目となる本シリーズは「開催都市の観光促進、地域振興に繋がり、住民に喜ばれるイベントとして中長距離シリーズを開催し、国際競技会で活躍できる選手の育成・強化を図る」ことをコンセプトに、以下の会場、期日で開催された。

大会	会場	期日
第1戦 網走大会	網走市営陸上競技場	7月4日(水)
第2戦 北見大会	東稜公園陸上競技場	7月7日(土)
第3戦 深川大会	深川市陸上競技場	7月11日(水)
第4戦 士別大会	士別市営陸上競技場	7月14日(土)

【大会内容】

1. 参加人数の面から



2. 記録の面から

前半の網走、北見大会は競技開始時の気温が15℃を切るという寒さ、後半の深川、士別大会は蒸し暑さという不安定なコンディションの中、網走大会では男女の2000mSCで山口浩勢選手(愛三工業)と藪田裕依選手(大塚製薬)が、北見大会では男子10000m競歩において松永大介選手(富士通)が世界記録へあと5秒に迫る37分58秒08の日本記録を見事、樹立した。深川大会では、日没後のメインレース時には絶好のコンディションとなり、男子10000mで田村和希選手(住友電工)が見事27分台を達成し、女子10000mでは33分切りが14名とハイレベルなレースとなった中で、韓国のANN SEUL KI選手が32分33秒61の韓国記録を樹立した。少し蒸し暑さは残った士別大会では、特筆される好記録は出なかったが、シカゴマラソン出場に向けたトレーニングに入っている大迫傑選手(Nike ORPJT)が5000m、10000mに出場し、両種目とも優勝した。大迫選手の強さもさることながら、大迫選手の生の走りを見るチャンスを子どもたちに提供できたことは、本大会の開催意義の一つを達成できたのではないかと考える。

シリーズ全体をみても、以下の表の通り自己ベスト及びシーズンベスト達成率が22.74%と例年通りの水準を維持できた。特に深川大会の日没後のメインレースにおける達成率は39.29%とナイターレースの強みを大いに発揮したと言える。

大会	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
士別	7.11%	29.66%	11.49%	22.11%	13.59%
深川	14.57%	23.24%	21.83%	14.79%	20.77%
北見	27.54%	35.94%	21.33%	23.04%	28.48%
網走	35.08%	38.90%	28.21%	7.68%	22.14%
全体	23.63%	33.69%	22.76%	14.60%	22.74%

ただ、主要種目である5000m、10000mの記録に関しては男女とも中間層の記録が中心であり、マラソンへのシフトや中間年の影響が大きかったとはいえ、シリーズ全体としての内容は例年に比べ、今一步であったといえるかもしれない。

【その他の取り組み】

1. 韓日交流事業の実施

恒例となったJOCの助成事業である日韓競技力向上スポーツ交流事業として、韓国選手団24名を網走、北見大会に招待した。

2. ブラインドマラソン種目の開催

昨年度に引き続き、網走、北見大会においてブラインド男女5000mを実施し、女子フルマラソン世界記録保持者の道下美里選手(三井住友海上)らが記録に挑戦した。

3. 重点種目・特殊種目の開催

本年度も男子3000m(Project-A(綾部強化コーチ))、女子3000m(Project-N(野口強化コーチ))を日本陸連の重点強化種目として実施した。さらに中距離種目で男女600m、1000mの特殊種目を新たな試みとして実施した。各種目はワールドランキング制度においてポイント対象になるので来年度以降も開催していきたい。

4. LIVE配信

昨年度、実験的に実施したレースのLIVE配信を4大会全てで実施し視聴数も各大会で1万回を超えた。さらに配信内容を充実させていきたい。

【今後の課題】

最大の目標である東京オリンピックを控え、本シリーズの重要性がますます高まることが予想され、ワールドランキングによるエントリー制度への対応などの検討が必要となってくる。

①強化戦略に基づく開催順序及び種目配置の再検討

②効果的な特殊種目の実施

③より良いコンディション設定⇒5大会へ(1大会280人程度)

あわせて、「する(競技者)」だけでなく「みる」、「支える」全ての人たちの満足を得るために、LIVE配信の活用による以下のような大会価値向上の検討も重要であると考えられる。

①配信を意識した看板広告価値の再構築

②配信を利用した開催地PRの場の提供

【最後に】

ホクレンをはじめとする協賛各社・団体、開催都市、主催、主管陸協のご支援、ご協力により本大会が開催できたことを心よりお礼申し上げます。

IAAF CECS レベル1 講師養成コース

普及育成委員会 指導者育成部長 沼澤秀雄

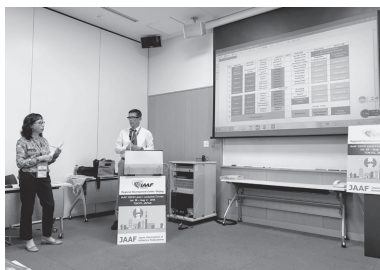
国際陸上競技連盟が認定するIAAF COACHES EDUCATION AND CERTIFICATION SYSTEM(国際陸連コーチ教育認証課程CECS)レベル1講師養成コースが味の素ナショナルトレーニングセンター (NTC) において2018年7月28日～8月2日の日程で実施された。講師はIAAF CECS上級講師である張英波氏、小林敬和氏の2名が担当し、RDC北京から管理主任の孫南氏ら2名が来日した。日本からは普及育成委員会指導者育成部を中心とする8名、東アジア地区からは中国、香港、台湾、マカオから12名(聴講者2名を含む)が受講した。講義及び指導実践はNTC研修室とNTC陸上トレーニング場で実施された。期間中は連日、猛暑の中の講習となったが、講師の対応やスケジュールの調整によって、一人も体調を崩すことなく全日程を終えることができた。

コーチ教育認証課程CECSとは国際陸上競技連盟が各国に国際基準を満たす十分な陸上競技指導者を確保するために指導者を養成して陸上競技の競技力向上と普及を図る目的で展開されている指導者教育とその認証を行う課程である。国際陸上競技連盟は世界各地にRDC(地区発展センター)を配置しており、東アジアでは中国の北京体育大学に置かれたRDC北京を拠点として展開されている。2016年度より教育課程が3段階(従前は5段階)にリニューアルされ、現在では新しいカリキュラムが施行されている。今回の講習はこの改変によるレベル1を担当する講師のリフレッシュ研修として行われた。このレベル1を担当する講師コースは概ね年に1回、RDC北京において不定期に行われており、開催期日によっては日本からの参加が難しい状況にあった。そのようななかで、今回は北京RDCと日本陸連の共催という形で進められ、初めて日本開催にこぎつけ、中華圏と日本から多くの講師担当を集めることができた。

初日の講義においてはCECSのカリキュラムの改変について、レベル1～レベル3の位置付けの説明、新しく導入されたモバイルを活用した、動画分析による指導についての紹介、Coach's eye、Motion densityといった用語についての考え方の解説が行われた。試験については、使用言語によって中国語を使用するグループと日本語でのグループに分けて実施されたため、各国の受講者同士のコミュニケーションが少なかったが、試験の待ち時間やJISSの食堂での昼食の時間は積極的に国際交流が行われた。受講者は2種類の指導プレゼン、1科目の講義プレゼン、論述式の筆記試験および最終口頭試問を経て、日本人受講者は全員が合格した。これにより、日本における新しいCECSレベル1コーチコースを担当する講師の適格者は12名となった。

本連盟は国際陸連や日本スポーツ協会から指導者養成を推奨されていることもあり、わが国では国際陸連CECSレベル1コーチコースを今までに新旧合わせて10回開催しており、国際基準の指導者をこれまでに約200名以上育成している。近年では国際的に活躍したアスリートのセカンドキャリア形成や各種委員会に所属する指導者の資質向上を目的として受講者を確保している。しかしながら、わが国における国際陸連CECSの認知度が低いことに加え、会場の確保、講師の調整や受講者の選定などの問題があり、順調に指導者養成ができていくという状況には至っていない。

最後に日本スポーツ協会が来年度から実施を予定しているスポーツ指導者資格制度の改組に対して、現在、本連盟が展開しているU13、U16指導者講習会、ジュニアコーチ指導者養成講習会、公認コーチ(陸上競技)講習会への取り組みと国際陸連CECSレベル1講習会をどのように関連づけて実施していくのが今後の検討課題となると思われる。



科学委員会活動報告(日本グランプリシリーズ、日本選手権など)

高松潤二(科学委員会副委員長)・杉田正明(科学委員会委員長)

1. 活動内容

科学委員会は、トップ選手のデータ収集や調査・研究のみでなく、ジュニア世代を含めた競技者の育成・強化に資するデータや情報を指導現場に提供しており、昨年度後半には強化合宿や研修合宿等の機会を捉えてデータフィードバックや講習会などでの活動を行ってきた。本年度前半は、8月末開催のアジア大会を最大のターゲットとして、各種の競技会においてパフォーマンス分析やマラソン、競歩では暑熱対策サポート活動を行ってきた。以下に活動を行った主な競技会を列挙する(これら以外にも多くの競技会において活動している)。

- (1) 兵庫リレー
- (2) 織田記念
- (3) 静岡国際
- (4) ゴールデングランプリ
- (5) 日本選手権
- (6) U20世界選手権
- (7) アジア大会

本委員会では、各種目・各競技会に主担当者を配置し、強化委員会等と協調しながらパフォーマンスの分析とデータフィードバックを行っている。種目毎の担当者は以下の通りである。

【ゴールドターゲット】

男子100m/200m/400mR (小林海、広川龍太郎)
男女競歩 (三浦康二)

【メダルターゲット】

男子400mH (森丘保典)
男子棒高跳 (高松潤二)
男女やり投 (村上雅俊)
女子長距離、男女マラソン (杉田正明)

【Top8 ターゲット】

男子800m、男女3000mSC (榎本靖士)
男子長距離 (杉田正明)
男子110mH、女子100mH (貴嶋孝太)
男子走幅跳、男子走高跳、男子三段跳 (小山宏之)
十種競技 (松林武生)
男子400m/1600mR、女子リレー (高橋恭平)

【ワールドチャレンジ】

男女中距離 (榎本靖士)
女子400mH (森丘保典)
男女投てき (村上雅俊)
女子跳躍 (小山宏之)
七種競技 (松林武生)

【強化育成】

U20 (榎本靖士、松林武生)
ダイヤモンドアスリート (松林武生、持田尚)

2. パフォーマンス分析の事例

図1は、本年度の日本選手権における男子棒高跳上位入賞者の助走速度について、助走のスタートから踏切までの変化を示したものである。これまで棒高跳における助走速度は、Lavegと呼ばれるレーザードップラー型の速度測定器を用いて継続的に測定してきた。そして、選手間の助走の特徴を比較することや、当該選手の試合毎の助走を詳細に検討することに役立っている。しかし、選手の後方から背面にレーザー(不可視で人体には無害)を照射し、その反射を利用するという測定原理の関係上、どうしても踏切の瞬間の速度変化を詳細に捉えることが困難であった。図1の細線はLavegによる測定結果であるが、昨年度から選手の跳躍局面を2次元画像分析法によりとらえ、選手の重心位置の変化から踏み切り一歩前～踏切での速度を算出す

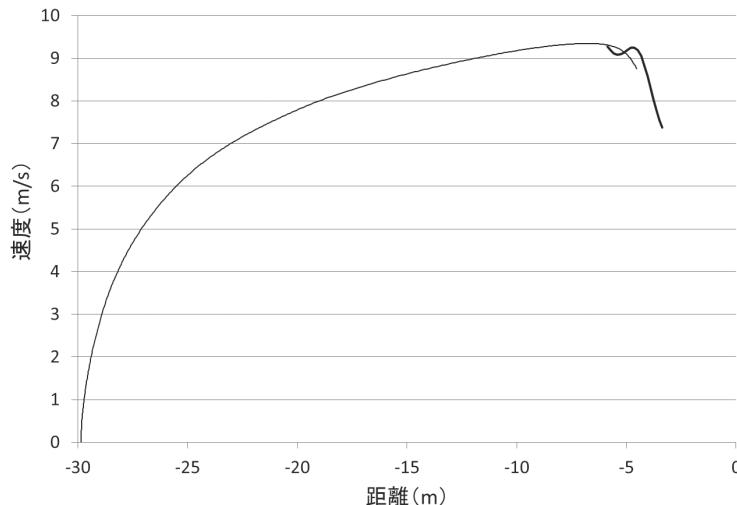


図1 日本選手権における男子棒高跳上位入賞者1名の助走速度変化
※細線はレーザードップラー法、太線は画像解析法により算出されたもので、横軸の0はボックス原点を示す

る試みを継続している（図1の太線）。棒高跳では、踏切直前や踏切においてどれくらいの重心速度を有しているかが極めて重要な要素で、Lavegにより測定された助走速度のピーク値に対して踏切時にどの程度減速しているかで踏切技術の評価をすることが概ね可能になる。

また、図2は、本年度のゴールデングランプリにおける男子棒高跳上位入賞者のグリップの高さを棒グラフで示したものである（ボックスの深さ20cm分だけ引いた値）。トップレベルだけで見れば、これだけポールを握る位置にばらつきがあることがわかる。今後6mを超える跳躍の実現に向けてグリップ高をさらに高めるにはどうすれば良いかを、我々科学委員会としても強化部門とともに検討していきたい。ただし、先述した重心位置やグリップ高の分析では、2次元画像分析法を用いているため、①分析作業に多大の時間と労力が掛かるためリアルタイムに結果をフィードバックすることが難しい、②試技撮影時の状況によって精度を高めることが難しい場合がある等の課題があることも事実である。いずれにしても、今後、継続的にデータを収集するというを優先事項として、棒高跳のようにこれまであまり包括的に収集することができていなかった種目のデータ蓄積を進めていきたい。

3. マラソン、競歩の暑熱対策支援

本年は東京2020に向けたシミュレーション合宿（対象：女子8名、男子10名）として、女子マラソンでは千歳合宿からの都内での30km走、男子マラソンにおいては、台風のためJISSの環境制御室内（気温33度、湿度70%）での30分+αのトレッドミル走を行った際の体重減少量（脱水）、給水量、発汗成分、深部体温、心拍数、血中乳酸濃度などのデータを収集した。

競歩では、同様に男子9選手を対象とし、冷涼な環境と暑熱環境下での比較を行うため、7月下旬に北海道の千歳と8月初旬に都内において、それぞれ2000m×5本、12～30kmウォークを行い、様々な指標（マラソンと同じ）を収集した。また、アジア大会競歩代表選手を対象とした千歳での強化合宿時に暑熱対策トレーニング及びコンディショ

ニングサポートを行った。今回の測定において、特にマラソンでは台風の影響や気象条件的に当初予定していた東京オリンピックを想定した暑熱環境下での測定を実施することはできなかった部分もあったが、しかし暑熱対策方策を検討する上で重要となるデータ収集を行うことはできた。合宿期間中には選手や指導者への講義や情報提供などを行い、暑熱対策に対する様々な情報伝達、共有や意見交換がその都度行われてきており、強化現場での創発的工夫に繋がっているといえる。今後も測定結果等を踏まえ、深部体温を上昇させないための方策や給水の摂り方などを含め各選手個人に向けた暑熱対策法の確立に向けたデータ分析、情報提供及びフィードバックを進めていく予定である。

4. おわりに

東京オリンピックに向けて、委員の増員やサポート範囲（対象とする専門性、種目や競技会）の拡充をしてきている。そして、委員の疲弊を防ぐだけでなく、今後のサポート活動の拡大や調査・研究の持続的な量的・質的向上を目的として、多数の外部協力者の動員も図ってきた。そのため、規模的には現状の活動内容がほぼ上限と考えられるが、本委員会としては、さらに中・長期的視野に立って「東京の次」を視野に入れながら活動をしていく必要がある。委員会メンバーの若返りなどもその一つではあるが、これまで委員会で蓄積してきた膨大なデータの整理と、そこから得られる知見の創出こそが今後の我々委員に課せられた使命であることを肝に銘じて活動を推進していきたい。最後に、本委員会の活動は我々だけの力では達成できないものであり、末筆ながら各方面のご協力に感謝申し上げます。

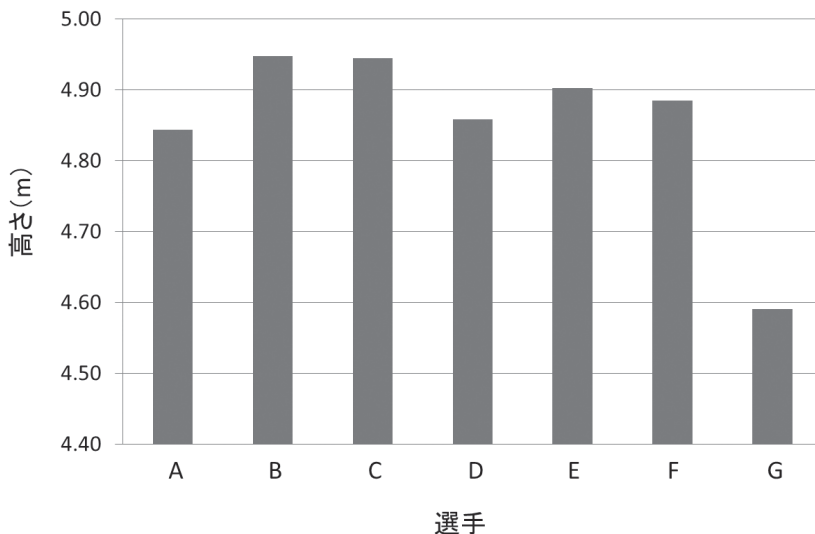
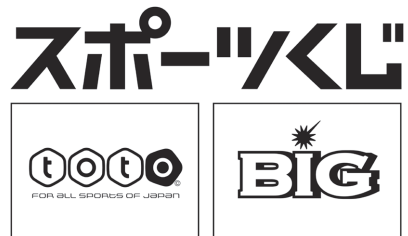


図2 ゴールデングランプリにおける男子棒高跳上位入賞者のグリップ高

“日清食品カップ”第34回全国小学生陸上競技交流大会 報告

日本陸連普及育成委員会 普及育成部 岸 政智

“日清食品カップ”第34回全国小学生陸上競技交流大会は、47都道府県代表の小学生競技者1026名および指導者326名の計1352名を集め、平成30年8月17日（金）より8月18日（土）までの2日間の日程で、横浜市日産スタジアムを主会場とし、新横浜プリンスホテル・新横浜国際ホテルを選手村として、研修会・競技会を開催いたしました。“日清食品カップ”第34回全国小学生陸上競技交流大会の概略を下記の通り報告いたします。

第1日目（8月17日・金曜日）

～前日フリー練習会・指導者研修会・監督会議～

一日目は、小学生の研修として、カップスードルミュージアム 横浜の見学を例年通り実施し、競技場到着選手団から順次前日フリー練習としました。主競技場で100m・80mH・跳躍、補助競技場でリレー、投てき練習場でジャベボール投のフリー練習会を行いました。投運動につきましては、一昨年より変更をした、楕円球のジャベボールを使用して行いました。

フリー練習は、猛暑に近い暑さでしたが、ほぼ予定通りに実施することができました。また、都道府県ごとの集合写真撮影を、練習会中に第2曲走路インフィールドにて撮影しました。

練習会的一方、各選手団2名の指導者に参加していただき、15時30分から16時25分まで指導者研修会を実施いたしました。今回は日本陸連普及育成委員会委員長の繁田理事による講演を行いました。近年スポーツ界で騒がれているハラスメントについての啓蒙や、今大会より様々な内容を変更していく旨を説明していただきました。競技会では、従来の子選⇒準決勝⇒決勝ではなく、予選の結果でA決勝・B決勝・C決勝とし、なるべく多くの選手に決勝の舞台に立ってもらいたいと考えました。フィールド競技でも24位までの表彰とし、なるべく多くの選手が賞状を手にするを狙いとしてきました。

競技会以外でも、日本陸連主催の大会で実施している、「キッズデカスロンチャレンジ・通称デカチャレ」を西ゲート付近で行いました。このデカチャレは、陸上競技の走跳投の種目の導入段階を楽しくマスターするプログラムです。10種類を実施することが目的ではなく、スペースや器具、対象学年に応じて、変化をさせて実施することが可能です。今回は、10mダッシュ・クロスホッピング・ジャベボール当ての3種目でそれぞれを混成競技のように記録を得点に換算をし、合計得点で順位を競う形で行いました。残念なが

ら、すべての選手が参加することはできませんでしたが、来年度にこの反省を生かしていければと考えております。

そして、もう一つの新たな試みが「フレンドシップパーティー」です。交流大会ではあるが、なかなか他の都道府県の選手と触れ合うことがないことから、「何か交流できる場を設けたい。そして選手たちに楽しい思い出をたくさん持って帰ってもらいたい。」そんな思いから「フレンドシップパーティー」と銘打って、開会式を行うことといたしました。「どこまでうまくいくか未知数ですが、やってみます」とお伝えして、研修会が終了しました。その後、16時30分より監督会議が行われ、競技運営上の諸注意や開会式などの諸連絡等確認をしました。監督会議は17時15分に終了し、1日目の全日程を終えることができました。

第2日目（8月18日・土曜日）

～開会式・指導者表彰・競技会・表彰式～

秋の気配を感じる天候の中、開会式は予定通り競技場メインスタンド前で行われました。47都道府県の選手・指導者による堂々の入場行進がとてとても壮観でした。

整列後、主催者を代表して公益財団法人日本陸上競技連盟 横川浩会長が登壇し開会の挨拶、後援・協賛者を代表されまして公益財団法人 安藤スポーツ・食文化振興財団理事長であり日清食品ホールディングス株式会社代表取締役社長・CEO 安藤宏基様よりご挨拶をいただきました。引き続き、スポーツ庁・横浜市・公益財団法人 安藤スポーツ・食文化振興財団の方々の紹介をいたしました。繁田理事登壇後、選手宣誓は山梨県代表の北橋翔君と中村陽莉さんにより行われました。最後に日清食品グループ陸上競技部の皆さんの紹介を行い、閉式通告により開会式を終えました。また開会式後には、今年度も陸上競技部の皆さんが選手団応援席を訪問し、選手達と交流をしていただきました。

開会式に引き続き、小学生陸上競技の普及発展に貢献された指導者の皆さんに対して、「安藤百福記念章」の授与式が行われ、各都道府県陸上競技協会より推薦された47名の受章者に対して、横川浩会長から表彰状、安藤宏基様から記念盾が授与されました。

表彰終了後の9時15分に友好女子100mから競技が開始されました。小学生アスリートの真剣な競技が展開され、トラックレースでは、適度な追い風と天候に恵まれて、5年女子100m、女子80mH、5年男子100m、ジャベリックボール投げで大会新が出ました。特に5年女子100mと6年男子100mは予選から2度立て続け

の記録となりました。

競技につきましては、NHK-Eテレで8月26日（土）15:30から17:00まで録画にて放映されました。また、競技結果につきましては、日本陸上競技連盟ホームページにてご覧下さい。

各種目の表彰式ではプレゼンターとして、佐藤悠基選手・村澤明伸選手（日清食品グループ）、藤光謙司選手（ゼンリン）、矢澤航選手（デサント）、宮本大輔選手（東洋大学）・泉谷駿介選手（順天堂大学）が入賞者に賞状・メダル・トロフィーを授与してくれました。

競技時間が30分程度押したことで、各都道府県のピンバッチの交換時間やデカチャレの表彰こそ割愛をしましたが、全選手団が再びメインスタンド前に集まり「フレンドシップパーティー」が行われました。プレゼンターの3選手「矢澤・宮本・泉谷」と解説をお願いした藤光選手が小学生選手たちが座っているホームストレートに現れると、大歓声があがりました。

今回、藤光選手には、デモストレーター3選手の動きの解説と、スタートや速く走るコツを伝授してもらいました。ハードルの2選手は、実際の高さ（106.7cm）で走ってもらい、とても高いハードルを越えていても、頭の高さが変わらずスピードが落ちないことを解説してもらいました。宮本選手は、イングリッシュコール（小学生大会はジャパニーズコール）について説明し、大会さながらの集中力で、一気にゴールまで駆け抜けました。手動ですが10"38の速報でした。U-20世界大会100mファイナリストのスピードを目の前で感じられた小学生選手たちのボルテージは最高潮となりました。最後は、小学生選手たちに、エールを送ってもらい無事に閉幕、退場となりました。退場中も同じ種目に出た者同士や、他都道府県の選手に積極的に話しかけバッチを交換する姿が多数見られました。平成最後の夏はとても良いものになったと感じられました。

来年度第35回大会以降も、大会開催の基本理念（交流・研修を中心に考える）を踏まえながら、「アスリート・ファースト」を第一とし、指導者の皆様のご意見等を頂戴しつつ、より良い大会に改善させてまいりたいと考えております。今後とも本大会に対するご理解ならびにご協力をお願い申し上げます。

最後に、ご後援いただきましたスポーツ庁、横浜市、公益財団法人 安藤スポーツ・食文化振興財団、公益財団法人日本スポーツ協会日本スポーツ少年団、読売新聞社、ご協賛いただきました日清食品ホールディングス株式会社、ご協力いただきましたアシックスジャパン株式会社、株式会社ニシ・スポーツ、ミズノ株式会社、会場を提供いただいた日産スタジアムをはじめ多くの関係各団体・各位に対し、心から感謝申し上げます、第34回全国小学生陸上競技交流大会の報告といたします。

謝辞

第34回全国小学生陸上競技交流大会の開催に当たり、主管いただきました神奈川陸上競技協会役員・競技審判員・普及部の皆様、補助員として協力頂きました東京学芸大学・東京女子体育大学・日本女子体育大学・桐蔭横浜大学の皆様に対し、心から厚くお礼申し上げます。



陸上競技指導者の登竜門!!

『JAAFジュニアコーチ養成講習会』

指導者は陸上競技の裾野の拡大やジュニア・コース選手の育成、トップレベルの強化など、あらゆる場面で欠かせない存在です。日本陸上競技連盟では指導者の養成を行うために指導者資格制度を設けています。指導者を目指す皆さん、まずは指導者資格の登竜門である『JAAFジュニアコーチ養成講習会』を受講しましょう。



JAAFジュニアコーチ養成講習会とは?

陸上競技の「走・跳・投」の基本技術を幅広く指導できるジュニアの指導者を養成することを目的とし年間15会場程度(全国各地)で開催しています。

あなたの受講タイプは?

JAAFジュニアコーチ養成講習会申込診断

START

陸上競技および指導に興味がある

出された課題を確実にこなすことができる

共通科目・専門科目受講
(25,000円)

に申込を!!

陸連HPを確認する



JAAFジュニアコーチ養成講習会だけではなく、教員免許の更新講習としても受講したい

教員免許更新講習申請用紙を提出した後に、
共通科目・専門科目受講
(25,000円)

に申込を!!

共通科目免除適応コース承認校に在学中である

免除適応コース承認校在校生のみ専門科目
(10,000円)

に申込を!!

日本体育協会が発行している資格(共通科目1)を既に保有している

専門科目のみ受講
(15,000円)

に申込を!!

日本体育協会が発行している資格(共通科目1)を既に保有している

教員免許更新講習申請用紙を提出した後に、
専門科目のみ受講
(15,000円)

に申込を!!

共通科目免除適応コース承認校に在学中である

教員免許更新講習申請用紙を提出した後に、
免除適応コース承認校在校生のみ専門科目
(10,000円)

に申込を!!

JAAFジュニアコーチ養成講習会以外にもJAAF公認コーチ養成講習会、CECSレベル1コーチ養成講習会と、1ランク上の資格講習会があります。

選手たちの競技力の向上や、安全なスポーツ活動の場を設けるためにも、更なる知識向上を目指していきましょう。

●詳細はWEBサイトへ

ジュニアコーチ養成講習会

検索

2018数字で見る陸上競技Vol.2 都道府県公認審判員数

事務局

シリーズ「2018数字で見る陸上競技」の連載第2弾。

Vol.2では、各都道府県陸上競技協会における2017年度公認審判員の登録人数を掲載します。

2017年12月31日現在

NO	陸協名	S級		A級		B級		合計
		男	女	男	女	男	女	
1	北海道	158	13	261	36	804	254	1,526
2	青森	70	3	86	4	406	126	695
3	岩手	79	2	106	18	370	76	651
4	宮城	101	10	143	109	418	25	806
5	秋田	92	0	117	9	549	90	857
6	山形	88	0	157	14	513	129	901
7	福島	108	4	258	28	244	83	725
8	茨城	82	3	139	20	354	80	678
9	栃木	47	1	82	5	247	64	446
10	群馬	84	1	102	5	597	129	918
11	埼玉	68	2	321	27	338	66	822
12	千葉	96	4	201	19	735	135	1,190
13	東京	420	42	345	101	466	190	1,564
14	神奈川	219	2	256	25	989	216	1,707
15	山梨	86	3	125	29	301	69	613
16	新潟	65	0	159	8	743	137	1,112
17	長野	100	0	127	8	526	116	877
18	富山	75	3	136	9	202	37	462
19	石川	73	4	116	8	359	104	664
20	福井	32	1	88	9	254	53	437
21	静岡	190	8	257	36	562	140	1,193
22	愛知	108	5	133	10	619	207	1,082
23	三重	41	1	95	8	329	115	589
24	岐阜	61	4	144	13	308	74	604
25	滋賀	84	3	233	22	345	150	837
26	京都	111	5	152	17	814	324	1,423
27	大阪	176	7	309	68	710	260	1,530
28	兵庫	90	2	254	17	741	104	1,208
29	奈良	2	0	41	4	66	19	132
30	和歌山	17	0	134	11	234	70	466
31	鳥取	59	3	146	20	90	26	344
32	島根	74	6	133	22	417	79	731
33	岡山	61	3	219	52	244	88	667
34	広島	139	6	220	20	450	130	965
35	山口	100	3	153	24	308	51	639
36	香川	28	0	110	6	152	41	337
37	徳島	19	1	72	7	109	56	264
38	愛媛	45	2	137	13	296	123	616
39	高知	33	4	90	14	137	50	328
40	福岡	209	10	275	34	807	292	1,627
41	佐賀	61	1	126	18	131	43	380
42	長崎	39	3	87	8	294	52	483
43	熊本	68	8	184	30	214	44	548
44	大分	98	2	137	36	244	76	593
45	宮崎	39	5	100	12	343	78	577
46	鹿児島	66	2	172	20	552	185	997
47	沖縄	63	1	71	19	83	25	262
		4,224	193	7,509	1,052	19,014	5,081	37,073

施設用器具委員会報告(2018-1)

施設用器具委員会

◆2018年度に公認した競技場及び長距離競走路

(2018.03.29～2018.07.18)

- | | | | | |
|------|------------------|------------------------------|---|-----------------------|
| 9499 | 北上(陸) | 岩手県北上市相去町高前壇地内 | 第1種 400m 全天候 継続 | 2018.04.01～2023.03.31 |
| 9500 | 田村市(陸) | 福島県田村市船引町船引字遠表400 | 第3種(条件付) 400m 全天候 継続 | 2018.02.19～2023.02.18 |
| 9501 | 成田市中台(運)(陸) | 千葉県成田市中台5の2 | 第3種(条件付) 400m 全天候 継続 | 2018.05.20～2023.05.19 |
| 9502 | 川崎市等々力(陸) | 神奈川県川崎市等々力1の1 | 第3種 400m 全天候 継続 | 2018.06.01～2023.05.31 |
| 9503 | 富山県総合(運)(陸) | 富山県南中田368 | 第1種 400m 全天候 継続 | 2018.05.01～2023.04.30 |
| 9504 | みよし(運)(陸) | 広島県三次市東酒屋町10493 | 第2種 400m 全天候 継続 | 2018.03.31～2023.03.30 |
| 9505 | 会津若松市鶴ヶ城(ハ) | 福島県会津総合(運)前～あいづ(陸) | コード番号 077220 ▽21km0975 自転車計測
往復(一部循環) 新設 | 2018.04.20～2023.04.19 |
| 9506 | 兵庫県立加古川河川敷(長) | 兵庫県加古川市加古川町友沢 | ▽42km195 自転車計測 往復 継続 | 2018.04.01～2023.03.31 |
| 9507 | 益田(陸) | 島根県益田市乙吉町 | 第2種 400m 全天候 継続 | 2018.04.30～2023.04.29 |
| 9508 | とみくじ(長) | 大分県黒津崎おまつりひろば | ▽42km195 自転車計測 循環(一部往復) 継続 | 2018.06.01～2023.05.31 |
| 9509 | 帯広の森(陸) | 北海道帯広市南町南7線56の7 | 第2種 400m 全天候 継続 | 2018.05.02～2023.05.01 |
| 9510 | 女子美術大学周回(ハ) | 神奈川県相模原市ギオンスタジアム | コード番号 147210 ◆21.0975km
自転車計測 周回 新設 | 2018.05.01～2023.04.30 |
| 9511 | 高岡市宮城光寺(陸) | 富山県高岡市城光寺登立137 | 第3種 400m 全天候 継続 | 2018.05.01～2023.04.30 |
| 9512 | 江差町民多目的広場(陸) | 北海道松山郡江差町字砂川225 | 第4種(条件付) 400m 土質 継続 | 2018.04.29～2023.04.28 |
| 9513 | セナリオハウスフィールド三郷 | 埼玉県三郷市泉3の4 | コード番号 114090 第4種 400m 全天候 新設 | 2018.05.03～2023.05.02 |
| 9514 | 東京・柴又(100km) | 東京都江戸川区堤緊急用河川敷～柴又公園内 | ▽100km 自転車計測 往復 継続 | 2018.05.14～2023.05.13 |
| 9515 | 日産スタジアム | 神奈川県横浜市港北区小机町3300 | 第1種 400m 全天候 継続 | 2017.12.12～2022.12.11 |
| 9516 | 日産スタジアム付設(ハ) | 神奈川県横浜市港北区小机町3300 | ▽21km0975 自転車計測 周回 継続 | 2018.03.31～2023.03.30 |
| 9517 | 大町市(運)(陸) | 長野県大町市常盤5638の44 | 第4種(条件付) 400m 一部全天候 継続 | 2018.05.27～2023.05.26 |
| 9518 | 富山県総合(運)補助(競) | 富山県富山市南中田368 | 第3種 400m 全天候 継続 | 2018.05.01～2023.04.30 |
| 9519 | 福井新聞(ハ) | 福井県セブンイレブン福井大手3丁目店前～福井(運)(陸) | 21km0975 ワイヤー計測 往復(一部片道) 継続 | 2018.07.01～2023.06.30 |
| 9520 | 中津川公園(競) | 岐阜県中津川市茄子川1683の1030 | 第3種 400m 全天候 継続 | 2018.05.15～2023.05.14 |
| 9521 | 愛宕山運動施設(陸) | 山口県岩国市愛宕町2丁目 | コード番号 354100 第4種 400m 全天候 新設 | 2018.06.11～2023.06.10 |
| 9522 | 都城(運)(陸) | 宮崎県都城市妻が丘町42街区 | 第4種(条件付) 400m 一部全天候 継続 | 2018.06.11～2023.06.10 |
| 9523 | 室蘭市入江(運)(陸) | 北海道室蘭市入江町1 | 第2種 400m 全天候 継続 | 2018.06.01～2023.05.31 |
| 9524 | サロマ湖ウルトラ(100km) | 北海道湧別総合体育館前～ | 北見市常呂町スポーツセンター前
◆100km 自転車計測 片道(一部往復) 継続 | 2018.06.26～2023.06.25 |
| 9525 | デンカビックスワンスタジアム | 新潟県新潟市中央区清五郎67の12 | 第1種 400m 全天候 継続 | 2018.06.14～2023.06.13 |
| 9526 | デンカスワンフィールド | 新潟県新潟市中央区清五郎67の12 | 第3種(条件付) 400m 全天候 継続 | 2018.06.14～2023.06.13 |
| 9527 | 奥越ふれあい公園(陸) | 福井県大野市篠座70の46 | 第2種 400m 全天候 継続 | 2018.06.01～2023.05.31 |
| 9528 | 周防大島町公認(ハ) | 山口県周防大島町(陸) | ▽21km0975 10km 自転車計測 往復 継続 | 2018.06.07～2023.06.06 |
| 9529 | 佐賀県(総)補助(競) | 佐賀県佐賀市日の出2の1の10 | コード番号 413050 第3種 400m 全天候 新設 | 2018.06.01～2023.05.31 |
| 9530 | 長崎市総合(運)かきどまり(陸) | コード番号422040 長崎県長崎市柿泊町2002 | 第2種(降格) 400m 全天候 継続 | 2018.05.15～2023.05.14 |
| 9531 | 阿蘇市阿蘇農村公園あびか(陸) | 熊本県阿蘇市黒川656 | 第3種(条件付) 400m 全天候 継続 | 2018.04.06～2023.04.05 |
| 9532 | 中央大学多摩校運動施設(陸) | 東京都八王子市東中野742の1 | 第3種(条件付) 400m 全天候 継続 | 2017.09.01～2022.08.31 |
| 9533 | 新潟医療福祉大学(陸) | 新潟県新潟市北区鳥見町字浜原2番101外44番 | | |

	第4種 400m 全天候 継続	2018.05.26～2023.05.25	2018.09.01～2023.08.31
9534	松任総合(運)(陸)	石川県白山市倉光4の22	
	第2種 400m 全天候 継続	2018.06.30～2023.06.29	
9535	熊本市水前寺(競)	熊本県熊本市中央区水前寺5の23の3	
	第2種(条件付) 400m 全天候 継続	2018.06.20～2023.06.19	
9536	沖縄市(陸)	沖縄県沖縄市諸見里2の1の1	
	コード番号 472070 第2種(条件付) 400m 全天候 継続	2018.06.23～2023.06.22	
9537	至学館大学(陸)	愛知県大府市横根町名高山55	
	第4種 300m 全天候 継続	2018.05.14～2023.05.13	
9538	鹿角市総合(運)総合(競)	秋田県鹿角市花輪字赤坂160	
	第3種(条件付) 400m 全天候 継続	2018.06.25～2023.06.24	
9539	群馬敷島(10km)	群馬県正田醤油スタジアム群馬	
	10km 5km ワイヤー計測 往復 継続	2018.07.01～2023.06.30	
9540	葛飾区奥戸総合スポーツセンター(陸)	東京都葛飾区奥戸7の17の1	
	第4種 400m 全天候 継続	2018.06.29～2023.06.28	
9541	諏訪湖(ハ)長野県ポレスターレイクシティ諏訪壱番館前～	ヨットハーバークラウンド内	
	▽21km0975 自転車計測 循環 継続	2018.04.12～2023.04.11	
9542	大分国際車いす(長)	大分県庁前～大分市営(陸)	
	◆42km195 21km0975 自転車計測 往復 継続	2018.07.01～2023.06.30	
9543	北海道(長)北海道駅前通大通公園西4～北大通大通公園西8		
	◆42km195 自転車計測 往復(一部片道) 継続	2018.08.25～2023.08.24	
9544	はまなす車いす(ハ)	大通公園西4～新川通新川1の1	
	▽21km0975 自転車計測 片道 継続	2017.08.24～2022.08.23	
9545	安来(運)(陸)	鳥根県安来市吉岡町450	
	第4種(条件付) 400m 一部全天候 継続	2018.07.05～2023.07.04	
9546	倉敷(運)(陸)	岡山県倉敷市四十瀬4	
	第2種 400m 全天候 継続	2018.04.01～2023.03.31	
9547	士別(ハ)	北海道西教寺駐車場前～中央公園前	
	▽21km0975 10km 自転車計測 周回 継続	2018.07.13～2023.07.12	
9548	かさま陶芸の里(ハ)	茨城県笠間芸術の森公園北ゲート入口	
	～笠間芸術の森公園内	21km0975 ワイヤー計測 往復 継続	
		2018.07.01～2023.06.30	
9549	大東文化大学東松山キャンパス総合(グ)	埼玉県東松山市岩殿560	
	第4種 400m 全天候 継続	2018.08.13～2023.08.12	
9475	群馬県立ふれあいスポーツプラザ(陸)	群馬県伊勢崎市下触町238の3	
	第4種 400m 全天候 新設	2018.04.01～2023.03.31	
9550	天拝山(10km)	福岡県筑紫野市総合公園	
	▽10km 5km 自転車計測 周回 継続		

◆検定期が承認されている競技場及び長距離競走路

(2018.07.18現在)

[北海道]	とち帯広の森(ハ)	21km0975	2017.10.31～2018.10.30
[福島]	福島大学(陸)	第4種 400m	2018.06.01～2019.05.31
[千葉]	富津臨海(陸)	第3種 400m	2018.08.01～2019.07.31
[神奈川]	日産フィールド小机(競)	第3種 400m	2018.06.15～2019.03.31
[三重]	東員町スポーツ公園(陸)	第3種 400m	2017.10.16～2018.10.15
[三重]	東員町スポーツ公園(陸) 付属(10km)	10km	2017.11.15～2018.11.14
[滋賀]	栗東市野洲川(運)(陸)	第4種 400m	2018.09.01～2019.08.31
[鳥取]	大山町名和総合(運)(陸)	第3種 400m	2018.06.01～2019.05.31
[福岡]	福岡県立久留米市スポーツセンター(陸)	第2種 400m	2018.07.30～2019.07.29
[沖縄]	浦添市(陸)	第3種 400m	2018.07.01～2019.06.29

◆公認が廃止となった競技場及び長距離競走路

(2018.03.29～2018.07.18)

[宮城]	いしのまき復興(ハ)	21km0975	2018.04.30限り
[福島]	会津若松市鶴ヶ城(ハ)	21km0975	2018.04.06限り
[福島]	伊達もの里(10km)	10km	2018.04.29限り
[茨城]	古河はなもも(長)	42km195	2018.03.16限り
[千葉]	ちばアクアライン(長)	42km195	2018.07.06限り
[福井]	わかさあじさい(ハ)	21km0975	2018.03.31限り
[京都]	京丹後市峰山町途中ヶ丘公園	第4種 400m	2017.06.29限り
[兵庫]	六甲アイランド(10km)	10km	2018.05.30限り
[鳥根]	平田スポーツ公園(陸)	第4種 400m	2018.04.30限り
[広島]	三原(運)三原市(陸)	第4種 400m	2018.06.30限り
[香川]	香川県明善学園スポーツセンター(陸)	第4種 300m	2018.05.31限り
[熊本]	熊本県立松橋高等学校運動場	第4種 300m	2018.06.10限り
[沖縄]	今帰仁村古利島(ハ)	21km0975	2018.03.30限り

◆種別変更のあった競技場

(2018.03.29～2018.07.18)

[長崎]	長崎市総合(運)かきどまり(陸)	第1種⇒第2種	(降格)
[沖縄]	沖縄市(陸)	第3種⇒第2種	(昇格)

大会観戦ガイド

第73回国民体育大会陸上競技会

秋のスポーツの祭典・国体を福井・9.98スタジアムで開催します！各都道府県を代表する中学生から一般選手までの活躍を応援して下さい！

▼期日：10月5日（金）～10月9日（火）

▼会場：福井県営陸上競技場9.98スタジアム
福井県福井市福町3-20福井運動公園

▼アクセス：

- ・北陸自動車道「福井IC」より車で約22分
- ・北陸自動車道「福井北IC」より車で約29分
- ・東福バス運動公園線「福新町1丁目」・「福新町5丁目」・「運動公園南門」下車徒歩5分
- ・東福バス清水グリーンライン「みどり図書館前」下車徒歩6分
- ・JR北陸本線「福井」駅よりタクシーで20分

▼種目：

【成年男子】

100m、400m、800m、110mH、400mH、10000m競歩、走高跳、三段跳、砲丸投、やり投

【少年男子A】

100m、400m、5000m、400mH、棒高跳、走幅跳、ハンマー投、やり投

【少年男子B】 100m、3000m、走幅跳、砲丸投

【少年男子共通】

800m、110mH、5000m競歩、走高跳、三段跳、円盤投

【成年少年男子共通】 4×100mリレー

【成年女子】

100m、400m、1500m、5000m、400mH、5000m競歩、走高跳、棒高跳、砲丸投、円盤投、やり投

【少年女子A】 100m、400m、3000m、100mH、走幅跳

【少年女子B】 100m、1500m、100mH、走幅跳

【少年女子共通】

800m、400mH、三段跳、砲丸投、円盤投、やり投

【成年少年女子共通】 4×100mリレー

▼テレビ放映予定

NHK Eテレ

10月5日（金）15：45～（17：00）

※16：05～サブチャンネル

10月6日（土）16：00～17：00

10月7日（日）14：30～16：30

▼問い合わせ先：

「福井しあわせ元気」国体・障害者スポーツ大会実行委員会

TEL：0776-20-0772 / FAX：0776-0-0664

大会公式サイト

<https://fukui2018.pref.fukui.lg.jp/kokutai/>

JOCジュニアオリンピックカップ 第34回U20日本陸上競技選手権大会 第12回U18日本陸上競技選手権大会

U20・U18日本選手権を愛知・パロマ瑞穂スタジアムで開催します！若きアスリート達の熱戦を是非、会場で！

▼日時：10月19日（金）～21日（日）

▼場所：

パロマ瑞穂スタジアム 愛知県名古屋市長瑞穂区山下通5-1

▼アクセス：地下鉄桜通線「瑞穂運動場西」駅下車徒歩10分

地下鉄名城線「瑞穂運動場東」駅下車徒歩5分

地下鉄名城線・桜通線「新瑞穂」駅下車徒歩10分

▼種目：

【ジュニアの部】

〈男子 14種目〉

100m、200m、400m、800m、110mH、400mH、走高跳、棒高跳、走幅跳、三段跳、砲丸投、円盤投、ハンマー投、やり投

〈女子 14種目〉

100m、200m、400m、800m、100mH、400mH、走高跳、棒高跳、走幅跳、三段跳、砲丸投、円盤投、ハンマー投、やり投



昨年度の大会の様子



昨年度の大会の様子

【ユースの部】

〈男子 15種目〉

100m、200m、400m、800m、110mH、400mH、走高跳、棒高跳、走幅跳、三段跳、砲丸投、円盤投、ハンマー投、やり投、4×100mリレー

〈女子 15種目〉

100m、200m、400m、800m、100mH、400mH、走高跳、棒高跳、走幅跳、三段跳、砲丸投、円盤投、ハンマー投、やり投、4×100mリレー

▼テレビ放映予定：東海テレビ（放送予定）

▼問い合わせ先：

一般財団法人愛知陸上競技協会

TEL：052-249-4363 / FAX：052-249-4366

日本陸連WEB内大会ページ

<http://www.jaaf.or.jp/competition/detail/1282/>

第49回ジュニアオリンピック 陸上競技大会

中学生アスリートの夢の舞台、ジュニアオリンピック！リレー日本一を決定する日本選手権リレーも同時開催！ぜひ日産スタジアムに足を運んで下さい！

▼日時：10月12日（金）～10月14日（日）

▼場所：日産スタジアム

神奈川県横浜市港北区小机町3300

▼アクセス：JR新横浜駅から徒歩15分、
地下鉄新横浜駅から徒歩12分、
JR小机駅から徒歩7分

▼種目

〈男子〉

区分A：100m、200m、3000m、110mJH、走高跳、砲丸投

区分B：100m、1500m、110mH、走幅跳、砲丸投

区分C：100m、1500m、走幅跳

区分A・B・C共通：円盤投、ジャベリックスロー、
4×100mリレー

〈女子〉

区分A：100m、200m、3000m、100mYH、走高跳、砲丸投

区分B：100m、1500m、100mH、走幅跳、砲丸投

区分C：100m、800m、走幅跳



昨年度の大会の様子

区分A・B・C共通：円盤投、ジャベリックスロー、
4×100mリレー

*年齢区分：2018年4月1日を基準として満年齢によって、
下記のとおり3区分する

A. 14歳以上～15歳未満（2003（平成15）年1月1日生～
2003（平成15）年12月31日生）

B. 13歳以上～14歳未満（2004（平成16）年1月1日生～
2004（平成16）年12月31日生）

C. 12歳以上～13歳未満（2005（平成17）年1月1日生～
2006（平成18）年4月1日生）

▼入場料：1,000円（1日）

※当日券のみ

▼問合せ先：神奈川陸上競技協会

TEL：045-210-9660 / FAX：045-210-9667

▼日本陸連WEB内大会ページ

<https://www.jaaf.or.jp/competition/detail/1281/>

第102回日本陸上競技選手権 リレー競技大会

リレー日本一を決定する日本選手権リレー！

今年は福岡・本城陸上競技場で開催！ぜひに足を運んで下さい！

▼日時：10月27日（土）～10月28日（日）

▼場所：本城陸上競技場 福岡県八幡西区御開4丁目16-1

▼アクセス：JR若松線「二島」駅下車徒歩約23分
市営バス30番二島駅行「本城陸上競技場前」下車徒歩約3分

▼種目

【日本選手権リレー】

〈男子 2種目〉

4×100mリレー、4×400mリレー

〈女子 2種目〉

4×100mリレー、4×400mリレー

※特別種目として、U18男女混合4×400mリレー

▼問合せ先：日本陸上競技連盟

TEL：045-210-9660 / FAX：045-210-9667

▼日本陸連WEB内大会ページ

<http://www.jaaf.or.jp/competition/detail/1324/>



昨年度の大会の様子

JAAF
SHIGA

一般財団法人滋賀陸上競技協会

〒520-3251 湖南市朝国607 坂一郎方
TEL.0748-72-2056 FAX.077-527-3925
http://srkshiga.com/

過日実施された日本選手権では、女子棒高跳で優勝を果たした南部琉璃選手（中京大学・近江高校出身）を皮切りに、滋賀県にゆかりのある選手が見事な活躍を見せてくれました。男子円盤投においては、湯上剛輝選手（トヨタ自動車・守山高校出身）が62m14の日本新記録を樹立し優勝しました。これで、女子棒高跳の我孫子智美選手（滋賀レイクスターズ・光泉高校出身）、男子100mの桐生祥秀選手（日本生命・彦根南中学出身）に加え、3名の本県出身選手が日本記録保持者となりました。また、初めて実施された女子50km競歩では園田世玲奈選手（中京大学・草津東高校出身）が見事優勝し、暫定日本記録保持者です。

現在、本県では2024年に開催される国民スポーツ大会に向けて準備を進めているところです。強化委員会を中心として様々な取り組みを実施していますが、未来の才能発掘に向けた事業にも力を注いでいます。それが、今年度で3回目となる「滋賀陸上フェスティバル」（通称「シガリク」）です。今年度は11月3日に甲賀市水口スポーツの森で開催します。小学5・6年生に純粹に陸上競技の楽しさを味わってもらおうという企画で、昨年以上に内容を充実させる予定ですが、本事業に参加した子ども達が滋賀国民スポーツ大会で活躍してくれることを期待しております。

施設面に関しては、彦根市に陸上競技場を建設する予定ですが、設計が確定しつつあります。コンパクトではありますが、滋賀の恵まれた自然環境と人に優しいスタジアムになる予定です。

今回から広報委員会が責任を持って、いろいろな情報を発信していく予定です、全国の皆さん宜しくお願いします。

(文責：広報委員長 馬場豊)

JAAF
OSAKA

一般財団法人大阪陸上競技協会

〒546-0034 大阪市東住吉区长居公園1-1 大阪市長居陸上競技場内
TEL.06-6697-8899 FAX.06-6697-8766
http://www.oaaa.jp/

全日本実業団対抗陸上競技選手権大会3年目の大阪開催

一般社団法人日本実業団陸上競技連合主催の第66回全日本実業団対抗陸上競技選手権大会は、9月21日から23日までヤンマースタジアム長居、ヤンマーフィールド長居を会場に開催され今年で3年連続大阪開催となりました。大会では、観客サービスを増やすことや映像、音楽を使用して観客と選手とが一体となって、好記録を出せるような運営環境を作り出すべく様々な取り組みを行っています。例えば、映像では、競技場に設置した主催者のカメラ以外にもTBSの録画中継用の映像を活用して場内に放映するとともに、その優勝インタビューも取り入れています。音楽は、様々な楽曲やジングル等を使って選手紹介や競技の各シーンの盛り上げを図っています。とりわけ、観客サービスでは、長距離種目において一般の観客の方がトラックすぐ外側まで入り応援できるようにしています。我が国一流の長距離選手が猛スピードで通過する様子を間近に見られることは陸上ファンや応援する者にとっては極めて臨場感が味わえる演出が行われています。同時に実業団連合強化委員会委員長などの著名人スタッフが登場し競技の模様を楽しく詳しく解説するなどファンサービスも豊富に展開されています。表彰式はフィニッシュライン横で競技終了後に行われ、インタビューや表彰が連続し、スピード感がありスタンドは大いに盛り上がりました。そして会場に来られたお客様には、実業団連合加盟各社から豪華な賞品の当たる抽選会が毎日実施され、陸上競技観戦以外にもお得な催事も併催されました。

(文責：常務理事 讃岐富男)

JAAF
KYOTO

一般財団法人京都陸上競技協会

〒615-0872 京都市右京区西京極南衣手町57番2
TEL.075-322-5500 FAX.075-322-5501
http://www.krk26.jp/

8月に三重県で行われた全国インターハイで、京都勢は延べ14名と4チームが入賞を果たしました。中でも、駒井斗馬（西城陽高）が八種競技、壹岐あこ（京都橋高）が200m、池田涼香（鳥羽高）が七種競技で優勝しました。学校対校では、洛南の4連覇はなりませんでしたが3位、京都橋が4位に入賞しました。入賞者のうち4名は2年生で、来年の沖繩インターハイが大いに期待されます。

「京都マラソン2019」は平成31年2月17日に開催されます。ランナー受付は終了しましたが、今回も多数のエントリーがあり抽選で出場者を決定することになります。また「京都マラソン2019」では、一般財団法人アールビーズスポーツ財団が主催するマラソンに挑戦するすべての人を応援するプロジェクト、MCC（マラソンチャレンジカップ）に参加することになりました。ランナーの皆さんには特典を受けていただくチャンスがあります。また「応援Navi」を使ってランナーにメッセージを送ることもできるようになりますので、応援をより楽しんでいただくことも可能となります。

詳しくは京都マラソン2019公式ホームページをご覧ください。

URL <http://www.kyoto-marathon.com/>

(文責：広報・情報処理部長 相模浩史)

JAAF
HYOGO

一般財団法人大阪陸上競技協会

〒651-0076 神戸市中央区吾妻通4丁目1番6号
神戸市生涯学習支援センター内
TEL.078-231-1771 FAX.078-231-1772
http://www.haaa.jp/index2.html

西日本豪雨の為、被害にあわれた方々にお見舞い申し上げます。

昨年度より、兵庫春季記録会を2会場（ユニバー記念競技場・加古川総合運動公園）に分かれて、実施しました。働き方改革の観点から競技役員に優しい競技会になりました。

4月21・22日には第66回兵庫リレーカーニバル（グランプリ プレミアム）が開催されました。神戸新聞創刊120周年記念イベントとして、「キッズ・レジェンド・チャレンジ」県内出身の元トップアスリートが小学生と100mを走りました。多田修平選手も特別ゲストとしてスタートを動めていただき大変盛り上がりしました。また、県内大学生による混合4×400mを特別レースとして実施し、リオ五輪、北京世界選手権リレーバトンの展示も企画しました。現在、来年度に向けてAAAエリアパーミット取得に向けて準備しています。

第86回兵庫選手権が7月7・8日実施予定でしたが、台風7号からの天候異常による大雨により各種警報が発令され競技を中止しました。近畿選手権出場選手決定のために7月16日（祝）1日で実施しました。トラック競技は、タイムレース決勝、フィールド競技は3回の試技で最終順位を決定しました。また、混成競技は、陸協推薦としました。

第8回神戸マラソンが11月18日（日）に開催されます。約76000人の申込があり、抽選でフルマラソン20000人にさせていただきました。今年度より、IAAFブロンズラベルを取得し海外選手も多数参加します。選手の皆様が快適に走れるように準備しております。

(文責：総務委員長 宮永正俊)

陸協NEWS



JAAF
NARA

一般財団法人奈良陸上競技協会

〒630-8113 奈良市法蓮町349-1 コーポラス一条415号
TEL.0742-27-2312 FAX.0742-27-2312
<http://www.narariku.com/>

ここ数年取り組みを強化しております「指導者育成」と「中学生の競技力向上」に少しずつ成果が見えるようになってまいりました。今年度は昨年に比べ全国大会への出場者が大幅に増えました。全国中学総体へ34人、全国インターハイへ19人が出場し大健闘を見せてくれました。他府県の私学に選手のみならず指導者まで流出し、また生徒の減少による学校の統廃合や陸上競技への登録者の減少等マイナス因子が多い中で今年度の成果は、普及強化を進める上で大変おきなき励みになりました。これまでの取り組みをさらに拡散・深化させ登録者の増員と競技力の向上に努めてまいりたいと考えております。

今年は、10月27日・28日の二日間で国際ゴールドマスターズ大会を開催いたします。大会に向け、昨年度より県マスターズ協会とともに準備を進めてまいりました。全国各地から来県いただく選手の皆様を万全の態勢でお迎えし、マスターズ大会を心ゆくまで楽しんでいただきたいと考えております。大会運営を通し、皆様に満足のいくパフォーマンスが発揮できるよう当協会の総力を挙げて支援していきたいと思っております。

JAAF
TOTTORI

一般財団法人鳥取陸上競技協会

〒680-0944 鳥取市布勢146-1
コカ・コーラウエストスポーツパーク陸上競技場（第2研修室）
TEL.0857-28-6540 FAX.0857-28-6540
<http://www.hal.ne.jp/trk/>

今夏の台風、大雨で被災された皆様にお見舞い申し上げます。本県は人的な被害はありませんでしたが、河川、道路の崩壊で大会中止、延期があり、日程調整と運営に苦勞しました。また38℃以上の猛暑日が続く、競技会での熱中症対策に翻弄されました。幸い大きな事故はありませんでしたが、今後夏の大会の在り方について検討が必要となります。3月に若い指導者2名をジャマイカに短期研修派遣。6月にはGP布勢スプリントに2名のジュニアトップクラスの高校生を招待。7月末にはジャマイカ陸連専務理事とトップコーチ2名を招聘して陸上セミナーと指導者研修会を開催しました。ジャマイカ交流を通して陸上競技の原点について考えさせられました。日本は用器具や施設等の練習環境では間違いない世界のトップレベルといえます。ジャマイカの強さを抜群の身体的素質にだけ見出すのは間違いです。物質的に豊かであることや恵まれた環境が全てプラスになるとは言えません。彼らの強さの秘密は精神的なものが大きいように感じます。私たちは恵まれた環境が当たり前過ぎてそれ以下の条件下ではベストが出せない。記録は出せてもひ弱な競技者を育成しているのではないかと考えます。技術的なノウハウだけでなく、陸上競技を志す競技者と指導者の姿勢を学ぶべきと感じます。2007年の大阪世界陸上事前キャンプの総監督のD.クォーリー氏に強さの秘訣を尋ねると「集中力と規律」と即回答しました。今の選手は最先端のトレーニングができてはいるはずですが。走るの人間です。心の問題をおざなりにしてはいないか考えさせられた素晴らしい機会でした。今後もジャマイカ交流を継続します。どうか全国の皆さんも足を運んでいただければと思います。(文責：専務理事 新田明彦)

JAAF
WAKAYAMA

一般財団法人和歌山陸上競技協会

〒641-0014 和歌山市毛見200 紀三井寺公園陸上競技場内
TEL.073-444-3662 FAX.073-444-3662
<http://wariku.com/>

都道府県陸協によっては「施設用器具部会（委員会）」等と称するようですが、本県では「技術部」と称する部があり、検定員一名と地方技術役員二名が所属しています。

本県には6つの陸上競技場があり、紀三井寺公園陸上競技場はIAAF-C2、南山スポーツ公園と紀伊田辺スポーツセンターは人工芝の競技場です。また高野・竜神スカイラインに100キロの競走コースも設定され施設面ではだんだんと充実してきました。

2015年、夏に全国高等学校総合体育大会が、秋に国民体育大会が開催され用器具も充実しました。2017年には国際・全日本マスターズ陸上競技大会も開催されました。技術部では競技場や競走路の検定作業はもちろんのこと、各大会が円滑に行われるようにと用器具の準備、点検や整備に取り組んでいます。準備は大会当日だけでは対応できないこともあり大会前からの用器具担当の審判員とともに活動することもしばしばです。時間を見つけては用器具の修理に取り組んだりしています。

全国レベルの大会を開催したことは技術部に関わる技術総務や公式計測、用器具係だけでなく、すべての審判員が自信になったように思います。大会が円滑に進行するだけでなく、いわゆる「競技者ファースト」の精神で審判業務を行うようになってきているように思います。

また2020年東京オリンピックでは紀三井寺公園陸上競技場がオーストラリアチームの宿舎地として予定されており、私たちは「競技者ファースト」だけでなく「おもてなし」の精神で選手のコンディション作りのお手伝いができればと考えています。(文責：技術部長 玉井一人)

JAAF
SHIMANE

一般財団法人島根陸上競技協会

〒690-0015 松江市上乃木10-4-1 松江市営陸上競技場内
TEL.0852-23-6686 FAX.0852-23-6686
<http://www.shimariku.jp/index.html>

国宝松江城マラソン2018開催

12月2日(日)「国宝松江城マラソン2018」を開催します。全国で、唯一フルマラソンが無い島根に於いて、念願であったフルマラソンを開催する運びとなりました。このマラソンの歴史は昭和33年8月17日「この道はローマ（五輪）に通ず」を合い言葉に「耐暑マラソン」として「玉造毎日マラソン」が開催され、平成16年第47回まで歴史を刻みました。平成13年第44回からは市町村合併に伴い「玉造松江毎日マラソン」と名称変更し、その後日本陸連の指導もあり、フルマラソンからハーフマラソンの大会へ「松江玉造ハーフマラソン」として開催し、平成29年9月24日第60回大会を持って幕を閉じました。フルマラソンに向け、平成28年2月に第1回検討委員会を開催し協議を重ね今年の2月に実行委員会を立ち上げ、準備を進め、6月より申し込みの受付をはじめ、8月10日現在で4,827人(男子4,160人女子667人)エントリーがありました(定員5,000人先着順)。コースについては昨年オープンした松江市総合体育館を発着とし、国宝松江城を右手に見ながら宍道湖大橋を南進し、国道9号くびき大橋を通り、再び体育館前を通り大橋川沿いに東進し、牡丹・朝鮮人参で有名な大根島(八束町)を横切り、中海を半周し、本庄、持田、川津を経由しゴールを目指します。国宝松江城、水の都松江を代表する風光明媚な宍道湖・中海の湖畔で健脚を競って戴きたいと思えます。

多くの選手の来県をお待ちしております。

(文責：総務委員長 矢野力)

事務局からのお知らせ

◆◆ジャカルタ 2018アジア競技大会 応援ありがとうございました!◆◆

8月25日～30日にかけてジャカルタ(インドネシア)で開催された「ジャカルタ 2018 アジア競技大会」において金メダル6、銀メダル2、銅メダル10を含めて全部で46の入賞を果たしました!

皆さま、応援ありがとうございました。

活躍された選手の試合後のコメントや写真を日本陸連公式HP (<https://www.jaaf.or.jp/>)に掲載中!



◆◆MGCシリーズ 2018-2019開幕◆◆

8月26日(日)、「北海道マラソン2018」がMGCシリーズ2018-2019の第1戦として開催されました。男子は、岡本直己選手(中国電力)が優勝し、日本人2位となった谷川智浩選手(コニカミノルタ)、同3位大塚祥平選手(九電工)、同4位中本健太郎選手(安川電機)が「MGC」の出場資格記録を突破!

女子は、初マラソンの鈴木亜由子選手(日本郵政グループ)が優勝し、こちらも「MGC」の出場資格記録を突破し、MGCファイナリストとなりました。

次回MGCシリーズは、男子が12月に開催される「福岡国際マラソン」、女子は「さいたま国際マラソン」です!



陸連時報編集委員

◇編集委員

- 横川 浩 (陸連会長)
- 友永 義治 (陸連副会長)
- 八木 雅夫 (陸連副会長)
- 尾縣 貢 (陸連専務理事)
- 麻場 一徳 (陸連強化委員長)
- 風間 明 (陸連事務局長)
- 高橋 克実 (陸上競技マガジン編集長)

◇時報編集室責任者

- 大嶋 康弘
- ◇時報編集担当
- 繁田 進
- 石塚 浩
- 青木 和浩
- 宮田 宏
- 廣瀬 静香

陸連時報編集室

〒163-0717
東京都新宿区西新宿2-7-1
小田急第一生命ビル17階
公益財団法人日本陸上競技連盟 内
TEL 03-5321-6580
FAX 03-5321-6591
WEBサイト <http://www.jaaf.or.jp/>
公式動画サイト <http://japanathletics.tv/>